

中野区地域包括ケアシステム推進プランにおける指標の達成状況について

区と関係団体等で構成する中野区地域包括ケア推進会議が策定した「中野区地域包括ケアシステム推進プラン」(平成29(2017)年3月策定。以下「推進プラン」という。)は、区の取組とともに関係団体等による具体的な取組を定める区と区民のアクションプランであり、平成30(2018)年度と令和7(2025)年度の達成目標とその達成指標を設定している。

この度、平成30(2018)年度の達成指標と主に取り組んだ内容について、以下のとおり取りまとめたので報告する。

1 指標の達成状況

柱	成果指標	当初値	目標値 (A)	実績値 (B)	達成率 (B/A)	実績値 年度
全体	長期療養が必要になった時自宅で過ごしたい人の割合(%)	34.4	40.0	31.4	79%	H30
	男：65歳の健康寿命 (要介護2以上の認定を受けるまでの平均自立期間)(年)	17.1 (H25)	17.7	17.9	101%	H29
	女：65歳の健康寿命 (要介護2以上の認定を受けるまでの平均自立期間)(年)	20.6 (H25)	21.2	21.4	101%	H29
1	認知症をよく理解している区民の割合(%)	15.2	22.0	26.7	121%	H30
	成年後見制度について言葉、しくみを知っていると答えた区民の割合(%)	34.5 (H26)	38.0	35.4	93%	H30
2	住みやすさの満足度(60歳以上)(%)	89.0 (H27)	90.4	89.8	99%	H30
	高齢者向け民間賃貸住宅登録戸数(戸)	1,780 (H25)	1,930	1,740	90%	H30
	歩道のバリアフリー化率(%)	42.3 (H26)	49.2	51.7	105%	H30
	区内移動の快適性に関する満足度(%)	- (H27)	71.0	62.9	89%	H30
3	前期高齢者の就業率(%)	33.7 (H22)	35.5	36.8	104%	H27
	定期的に一定の運動・スポーツをしている区民の割合(%)	53.0	57.4	51.7	90%	H30
	地域の活動に参加した区民の割合(%)	27.0 (H27)	35.5	24.1	68%	H30
4	近所づきあいの中で、相談や助け合いなど親しい付き合いをしてくれる人がいる割合(%)	13.2	18.0	12.9	72%	H30

	地域住民相互で見守りや支えあい活動をしている割合 (%)	27.7 (H27)	35.0	25.2	72%	H30
5	住民主体の気軽に参加できる場（週1回以上開催）の創出（箇所）	-	100	169	169%	H30
	介護サービスを利用してケアプランについて「不満な点はない」人の割合 (%)	46.7 (H26)	49.4	44.8	91%	H29
6	長期療養が必要になった時自宅で過ごしたい人の割合 (%)	34.4	40.0	31.4	79%	H30
	かかりつけ医を決めている区民の割合 (%)	71.8 (H27)	74.0	70.8	96%	H30
	かかりつけ歯科医を決めている区民の割合 (%)	70.1 (H27)	74.0	65.6	89%	H30
7	すこやか福祉センター等が地域包括ケアを支えるための情報システムが完成している (%)	-	100.0	50.0	50%	H30
	すこやか福祉センターを身近に感じる人の割合 (%)	13.6 (H27)	18.0	14.0	78%	H30
8	認知症サポートリーダー数 (人)	123	200	289	145%	H30
	認知症グループホームの定員 (人)	271 (H26)	387	330	85%	H30
	認知症をよく理解している区民の割合 (%)	15.2	22.0	26.7	121%	H30

2 総括

各指標について、平成30年度の実績値を目標値で除した数値を「達成率」とし、比較したところ、「住民主体の気軽に参加できる場の創出」や「認知症サポートリーダー数」、「認知症をよく理解している区民の割合」では高い達成率となっている。

一方で、「地域の活動に参加した区民の割合」、「近所づきあいの中で、相談や助け合いなど親しい付き合いをしてくれる人がいる割合」、「地域住民相互で見守り支えあい活動をしている割合」といった、近所付き合い、地域活動に関する指標では達成率が低い結果となった。また、「すこやか福祉センターを身近に感じる人の割合」も達成率が低い。

全体的には、国が進める介護予防事業、認知症事業等は達成率が良好であるが、制度や事業として構築しづらい指標（地域活動等）は達成率が低いという傾向がうかがえる。

現在、数値だけではわからない実態や課題について把握するとともに、推進プランの見直しに向けた意見聴取等を行うため、関係各団体及び各担当課等に対し個別にヒアリングを行っているところであるが、取組を充実させていくべき課題として、現時点において認識しているのは次の事項である。

- (1) 地域包括ケアシステムについての周知、広報の充実
- (2) 関係団体等がそれぞれの強みを生かし、また補い合うようなコラボレーション（協働）のさらなる推進
- (3) 地域包括ケアシステムの理念を共有し、連携して取り組む人材確保・育成
- (4) 「制度のすき間」問題など、新たな課題への対応
- (5) 成果指標の見直しや新たな設定

3 全体及び柱別の達成指標 別紙1及び別紙2のとおり

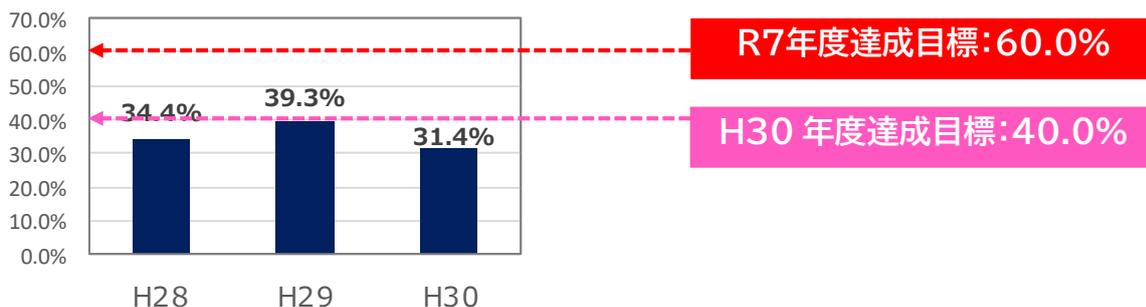
全体及び柱別の達成指標

【注記】

- ①年度表記は元号とし、グラフでは、平成は「H」、令和は「R」と省略して記載するものとした。
- ②文中の「誤差」「誤差率」については、別紙2を参照のこと。

1 プラン全体の達成指標

(1) 長期療養が必要になった時自宅で過ごしたい人の割合

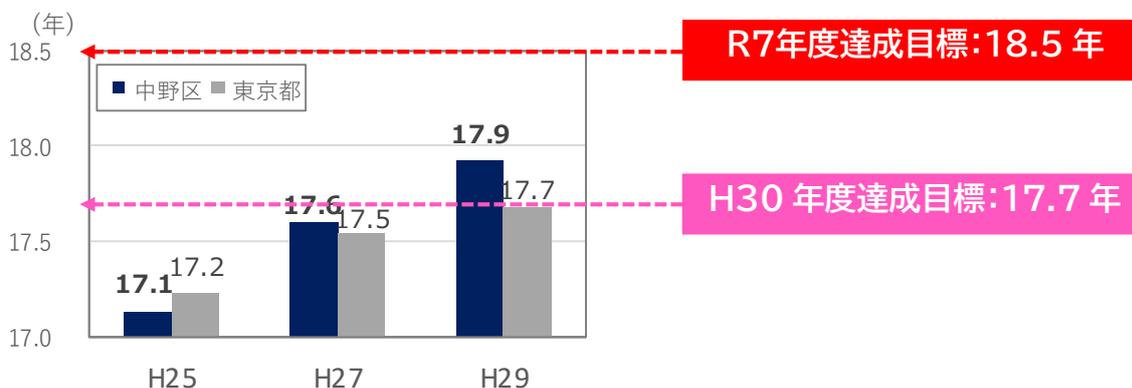


■指標の解釈・評価

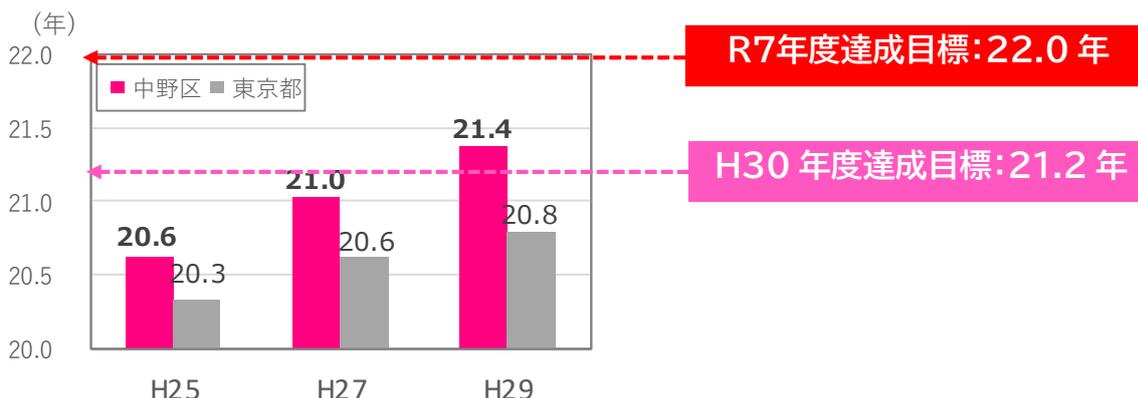
- ・本指標は、「健康福祉に関する意識調査」の設問である。
- ・本指標の平成30年度達成率は79%である。
- ・サンプル調査による誤差を考慮すると、この3年間で「長期療養が必要になった時自宅で過ごしたい人の割合」は、ぼぼ横ばいで推移していると考えられる。

(2) 65歳の健康寿命

【男性】



【女性】



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、東京保健所長会方式で算出されている「65歳の健康寿命」から65を引いて算出したものである。健康寿命とは、要介護2以上の認定を受けるまでの平均自立期間をいう。
- ・男性の65歳の健康寿命の平成30年度達成率は101%である。
- ・女性の65歳の健康寿命の平成30年度達成率は101%である。
- ・平成25年度から男女ともに延伸している。
- ・東京都との比較では、男女ともに東京都の伸び率を超えているため、その差は拡大しつつあ

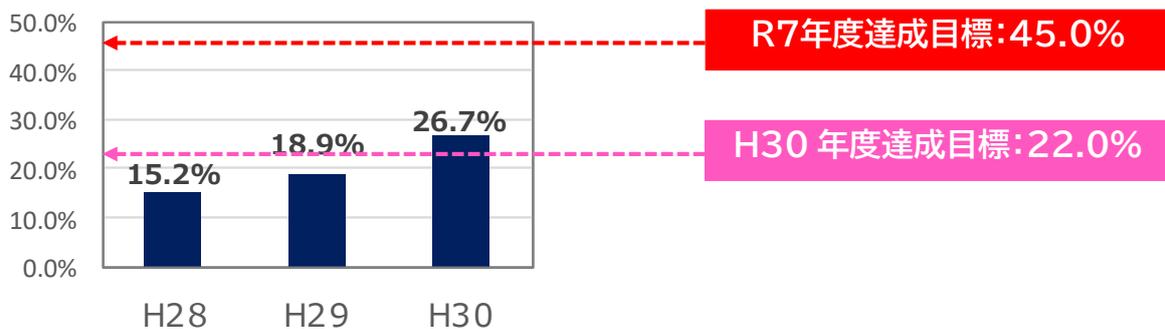
り、男性の東京都と中野区の差は▲0.1年（平成25年）→0.1年（平成27年）→0.2年（平成29年）、女性の東京都と中野区の差は0.3年→0.4年→0.6年となっており、女性の方で健康余命の延伸が顕著である。

2 柱別の達成指標

(1) 柱1 本人の選択／権利擁護

目標	○区民が認知症や障害について正しく理解している。 ○成年後見制度や権利擁護につながるサービスが普及し、本人の選択によりサービスを利用している。 ○誰もが、権利を侵害されず、尊厳を持って生活を送っている。
施策	○権利擁護の拡充 ○虐待の防止
主な制度、事業	○認知症サポーター養成講座実施（地域包括ケア推進課、医師会、歯科医師会、薬剤師会、地域包括支援センター、介護サービス事業所連絡会、生活協同組合コープ等区内法人・企業） ○成年後見制度講演会、研修会の開催（医師会、介護サービス事業所連絡会、福祉推進課、社会福祉協議会） ○なかのオレンジカフェ支援事業実施要綱施行（地域包括ケア推進課） ○地域福祉権利擁護事業、あんしんサポート事業（社会福祉協議会） ○家族支援（地域包括ケア推進課、すこやか福祉センター、介護サービス事業所連絡会、ボランティア団体） ○虐待防止（専門ケース会議、介護サービス事業所への研修）（福祉推進課、地域包括ケア推進課、すこやか福祉センター、介護・高齢者支援課、他）

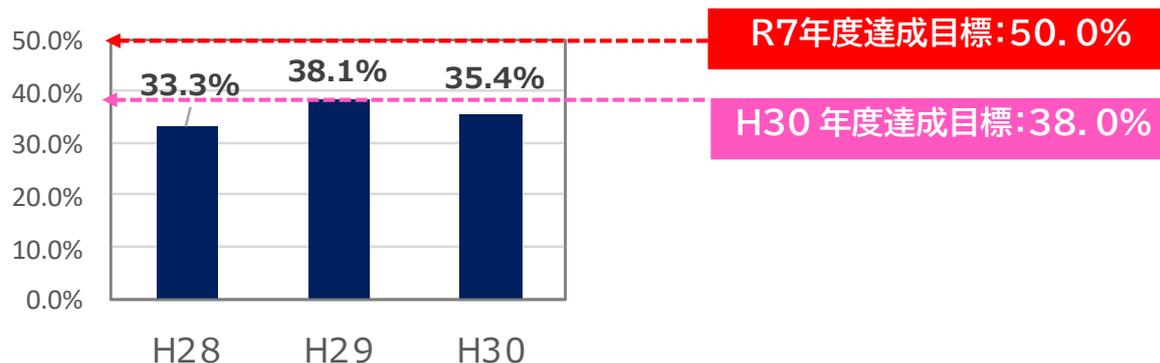
① 認知症をよく理解している人の割合



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、「健康福祉に関する意識調査」における設問で「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」と回答した人の割合である。
- ・本指標の平成30年度達成率は121%である。
- ・実人数に換算してみると、平成28年度はおよそ4万9千人（誤差率を考慮すればおよそ4～5万9千人）、平成29年度はおよそ6万2千人（5万2千人～7万1千人）、平成30年度はおよそ8万9千人（7万7千人～9万7千人）となり、この2年間でおよそ4万人増加したことになる。認知症サポーター養成講座受講者累計が17,816人であることなどから、本指標の伸びには、区や関係団体の取組のみならず、社会全体での関心の高まりが作用しているものと考えられる。

② 成年後見制度について言葉、仕組みを知っていると答えた区民の割合



■指標の解釈・評価

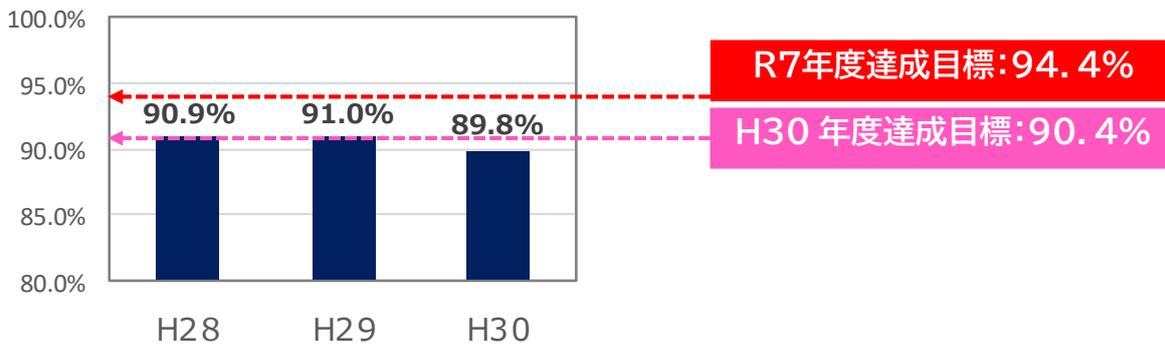
- ・本指標は、「健康福祉に関する意識調査」における設問で「知っている」「だいたい知っている」と回答した人の割合の合計である。
- ・本指標の平成30年度達成率は93%である。
- ・誤差を考慮すると、平成30年度は38.0%を超えている可能性があり、平成29年度には38.1%となっていることから、この3年間で目標値である38.0%は達成したと考えられる。

なお、柱1の成果指標のうち、「認知症日常生活自立度Ⅱ以上の方が成年後見制度等権利擁護により守られている割合」については、平成30年度目標値が設けられていない等のことから記載していない。

(2) 柱2 住まい・住まい方

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が住み慣れた地域においてそれぞれの状態に応じた適切な住まいで生活を送っている。 ○高齢者が、出歩きたくなるまちづくりが整っている。
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な住まいの確保 ○在宅生活が困難な場合のケアを行う施設の確保 ○誰もが安全で利用しやすい都市基盤・交通環境の整備
主な制度、事業	<ul style="list-style-type: none"> ○あんしんすまいパック事業、空家等対策基本計画（空家等の適切な利用及び活用推進に関する条例）、住宅セーフティネット制度、住宅マスタープラン、中野区住宅政策審議会（住宅課） ○住み替え支援事業（住宅課、全日本不動産協会東京都本部中野・杉並支部、東京都宅地建物取引業協会中野区支部） ○低所得高齢者向けの都市型軽費老人ホームの誘導（福祉推進課） ○高齢者グループホーム等の整備誘導（介護・高齢者支援課） ○不動産、住まいの無料相談会（全日本不動産協会東京都本部中野・杉並支部） ○不動産お悩み解決公開セミナー（東京都宅地建物取引業協会中野区支部） ○不動産担保型生活福祉資金の貸付事業（社会福祉協議会） ○中野区バリアフリー基本構想（道路課）

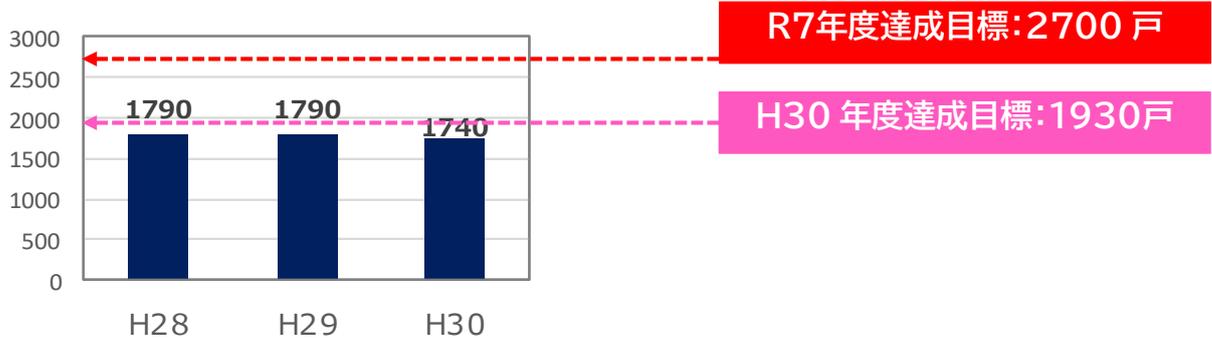
① 住みやすさの満足度（60歳以上）



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、「中野区区民意識・実態調査」（以下「区民意識調査」という。）の設問で、「とても住みよい」「まあ住みよい」と回答した人の割合の合計である。
- ・本指標の平成30年度達成率は99%である。
- ・この3年間の「住みやすさの満足度」（60歳以上）は誤差の範囲内に収まっているため、満足度が上昇あるいは低下したとはいえ、この期間はほぼ横ばいで推移したとみられる。

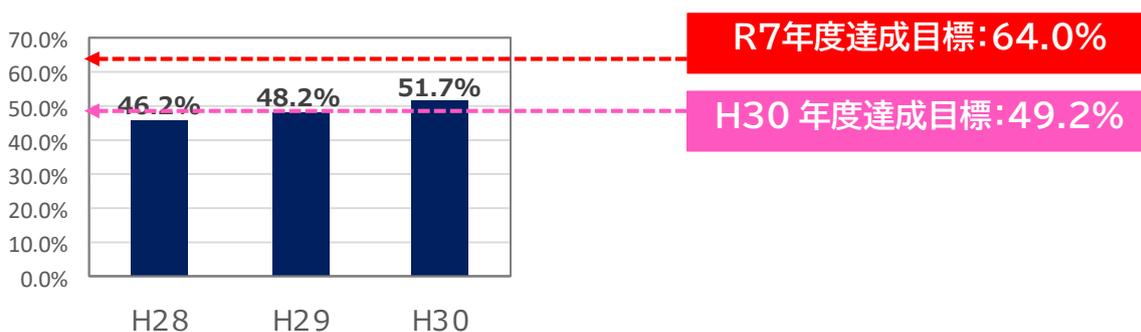
② 高齢者向け民間住宅賃貸登録戸数



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、東京都が独自に実施する「東京シニア円滑入居賃貸住宅情報登録・閲覧制度」に登録されていた民間賃貸住宅の戸数に基づくものである。
- ・本指標の平成30年度達成率は90%である。
- ・本制度における新規登録は、平成31年3月末日に終了したため、柱2の目標のひとつである「高齢者が住み慣れた地域においてそれぞれの状態に応じた適切な住まいで生活を送っている」ことを測るための指標として、上記の制度の登録戸数を用いることは不可能となった。このため、別の指標を考案していく必要がある。

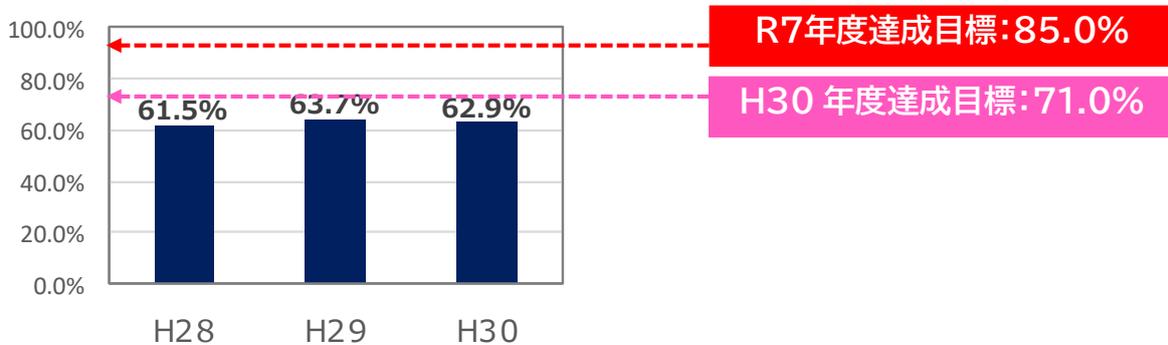
③ 歩道のバリアフリー化率



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、「中野区バリアフリー基本構想」における歩道の整備率に基づく数値である。
- ・本指標の平成30年度達成率は105%である。
- ・区では「中野区バリアフリー基本構想」に基づき、区内7つの重点整備地区（新中野、中野、東中野・落合、新井薬師前、沼袋、野方、鷺宮）について、順次、駅までの道路の段差解消を行うことで、歩道のバリアフリー化を進めているところである。

④ 区内移動の快適性に対する満足度



■指標の解釈・評価

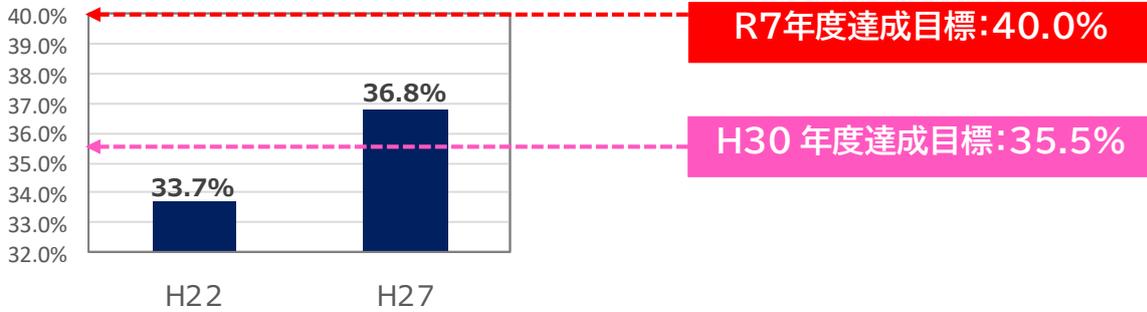
- ・本指標は、「区民意識調査」（交通の便に関する評価）の設問である。
- ・本指標の平成30年度達成率は89%である。
- ・この3年間の「区内移動の快適性に関する満足度」は誤差の範囲内に収まっているため、満足度はほぼ横ばいで推移したと考えられる。
- ・区全体としては62.9%と、およそ3分の2の区民が「交通の便がよい」と回答しているものの、町別にみると地域によって大きな格差が生じている。割合が高い地域は、東中野、中央で8割以上となっており、逆に低い地域は、上鷺宮、若宮、鷺宮で4割以下である。

(3) 柱3 健康・社会参加・就労

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○区民が、楽しみながら健康づくりや介護予防に取り組んでいる。 ○区民が、身近な地域での仲間づくりや地域活動に参加している。 ○高齢者が、住民主体活動（NPO）や、起業、就労などにより、地域の新たな担い手として活躍している。
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○健康づくり、介護予防の推進 ○社会に参加し活躍できる場の充実
主な制度、事業	<p>《健康》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防事業（短期集中予防サービス「なかの元気アップセミナー」（介護・高齢者支援課）短期集中予防サービス事業（委託先：歯科医師会、東京都柔道整復師会中野支部、スポーツコミュニティプラザ） ○糖尿病予防対策事業（特定健診の受診率の向上）（保健企画課） ○健康・生きがいづくり事業（すこやか福祉センター） ○介護予防普及啓発事業（高齢者会館委託事業者） ○サロン支援（社会福祉協議会、町会連合会、民生児童委員協議会、すこやか福祉センター） ○サロン運営（友愛クラブ連合会、町会・自治会、介護サービス事業所連絡会、ボランティア団体、NPO法人） <p>《社会参加》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域支援実践講座（介護・高齢者支援課）

	<p>《就 労》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シニア向けお仕事説明会、高齢者向けお仕事相談・面接会（産業観光課） ○中野就職サポート、中野くらしサポート、中野就労セミナー（生活援護課） ○高齢者の生きがい就労支援（シルバー人材センター） ○中野 de 創業塾（産業観光課、東京商工会議所中野支部）
--	--

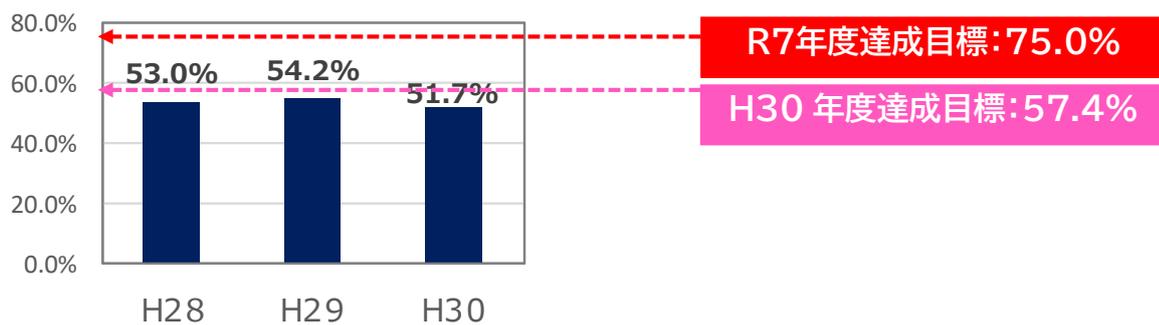
① 前期高齢者の就業率



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、国勢調査に基づく数値である。国勢調査は全数調査であるため最も信頼性が高いが、実施は5年ごとであり、直近である平成27年の次は令和2年となる。このため、本プランが開始された平成28年度からの3年間の就業状態を観察するためには、令和2年の国勢調査結果を待つ必要がある。
- ・本指標の平成30年度達成率は104%である（なお、①の理由により平成27年実績による）。
- ・本プラン策定前ではあるが、平成22年から平成27年の5年間で前期高齢者の就業率は3.1ポイント上昇している。これには改正高年齢者雇用安定法が平成25年4月1日から施行され、事業主に65歳までの定年の引き上げ、継続雇用制度の導入等の措置を講じることが義務づけられたことなども影響していると考えられる。

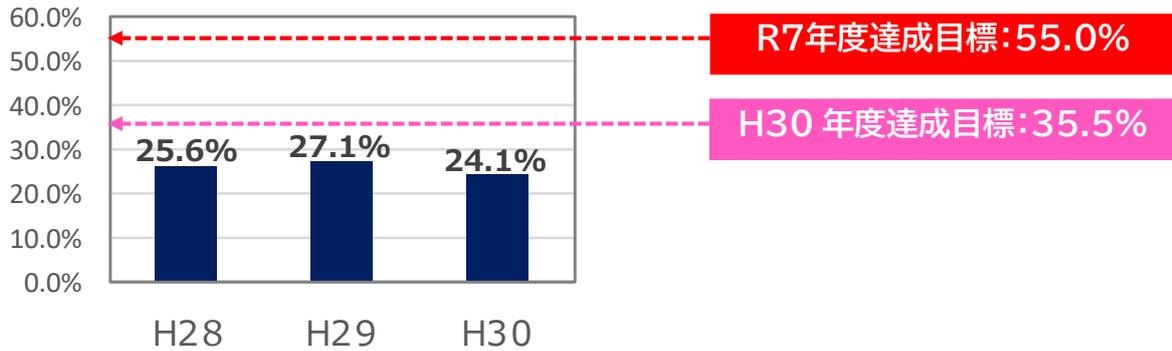
② 定期的に一定の運動・スポーツをしている区民の割合



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、「健康福祉に関する意識調査」の設問で「1回30分以上の運動を週に1～2回以上行っている」と回答した人の割合である。
- ・本指標の平成30年度達成率は90%である
- ・平成29年度、平成30年度ともに、平成28年度の53.0%の誤差の範囲内におさまっており、この3年間はほぼ横ばいで推移したと考えられる。

③ 地域の活動に参加した区民の割合



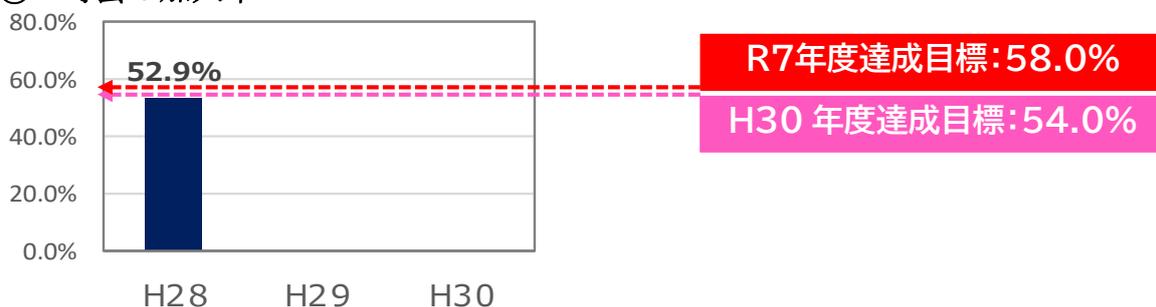
■指標の解釈・評価

- ・本指標は、「健康福祉に関する意識調査」の設問である。対象とする「地域の活動」は「町内会・自治会の活動」「趣味関係の活動」「スポーツ関係の活動」「ボランティア活動」「学習・教養サークルの活動」「その他」であり、このうちのどれか一つでも活動していれば、地域の活動に参加しているとしている。
- ・本指標の平成30年度達成率は68%である。
- ・地域の活動に参加した区民の割合をみると、平成29年度、平成30年度ともに、平成28年度の25.6%の誤差の範囲内におさまっており、この3年間はほぼ横ばいで推移したと考えられる。

(4) 柱4 地域の見守り支えあい

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が、孤立しないで地域とかかわりを持った生活を送っている。 ○区民が、地域の高齢者を日常的に見守っている。 ○全高齢者が、災害時に速やかに避難できる。
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○見守り支えあい活動の推進 ○災害時要援護者支援の推進
主な制度、事業	<ul style="list-style-type: none"> ○町会・自治会行事、見守り対象者名簿を活用した支えあい活動（町会連合会） ○ひとり暮らし高齢者等確認調査（民生児童委員協議会） ○高齢者調査フォロー調査（すこやか福祉センター、地域活動推進課） ○緊急連絡カード、中野区地域支えあい活動の推進に関する条例に基づく協定（町会・自治会、事業者）（地域活動推進課） ○介護サービス情報公表システムへのサロン等居場所の掲載（介護・高齢者支援課、すこやか福祉センター） ○緊急通報システム利用促進（介護・高齢者支援課） ○災害時個別避難支援計画書の作成支援（地域活動推進課、すこやか福祉センター） ○ごみの訪問収集（戸別回収）（ごみゼロ推進課）

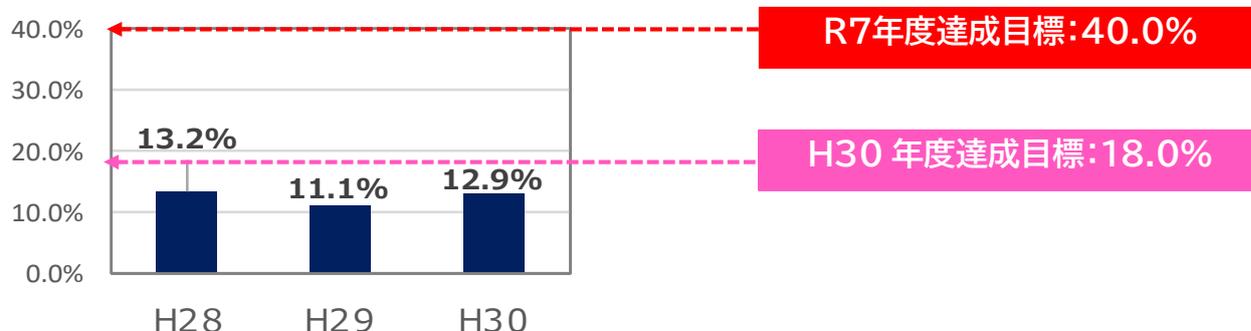
① 町会の加入率



■指標の解釈・評価

- ・地域の見守り支えあいのための最も重要な基盤に町会・自治会があるという認識から、本プランでは「町会加入率」を指標として設定した。
- ・加入率について調査していない町会・自治会があることから、今回は区全体での「町会加入率」の算出ができなかった。しかしながら、町会・自治会等による近隣の見守り活動の定着促進は最も重要な課題のひとつであるため、今後、別の指標を考案していく必要がある。

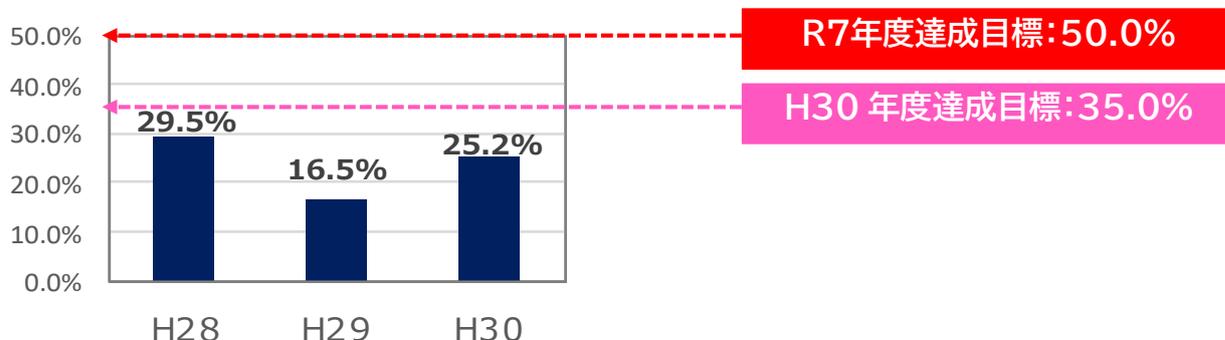
② 近所づきあいの中で、相談や助け合いなど親しい付き合いをしてくれる人がいる割合



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、「健康福祉に関する意識調査」の設問である。
- ・本指標の平成30年度達成率は7.2%である。
- ・近所づきあいの中で、相談や助け合いなど親しい付き合いをしてくれる人がいる割合は、この3年間で平成28年度の数値の誤差の範囲内におさまっており、横ばいで推移していると考えられる。

③ 地域住民相互で見守りや支えあいの活動をしている割合



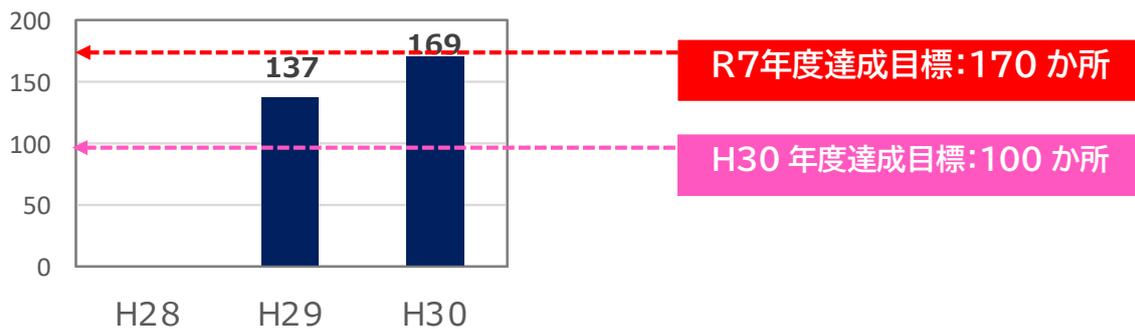
■指標の解釈・評価

- ・本指標は、「健康福祉に関する意識調査」の設問で、見守り・支えあい活動を「継続的に活動している」「活動したことがある」と回答した人の割合の合計である。
- ・本指標の平成30年度達成率は7.2%である。
- ・住民相互で見守り支えあいをしている割合は、この3年間で上下しながらもやや低下する方向に推移している。平成30年度の25.2%という結果は、平成28年度の誤差の範囲を超えており、この3年間で、見守り支えあいの割合は低下していると考えられる。

(5) 柱5 介護・生活支援サービス

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が、在宅で生活していくために必要な介護サービスを選択できる。 ○高齢者が、日常的に必要な配食、買い物、見守りなどの多様な生活支援サービスを受けられる。 ○介護者がゆとりを持って日常生活を送っている。
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅生活を継続するための介護サービス等の充実 ○生活支援サービス等の充実
主な制度、事業	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防・日常生活支援総合事業、介護予防・生活支援サービス担い手養成講座、中野区認定ヘルパー研修、特別養護老人ホーム等整備に伴うショートステイ誘導整備（介護・高齢者支援課） ○あんしんサポート事業、ほほえみサービス事業、高齢者困りごと支援事業、地域の居場所情報交換会、福祉何でも相談、中高年のひきこもり者の居場所「カタルーベの会」、ひきこもり家族の会「中野わの会」（社会福祉協議会） ○介護者レスパイト事業（ボランティア団体、NPO 法人、社会福祉協議会、すこやか福祉センター）

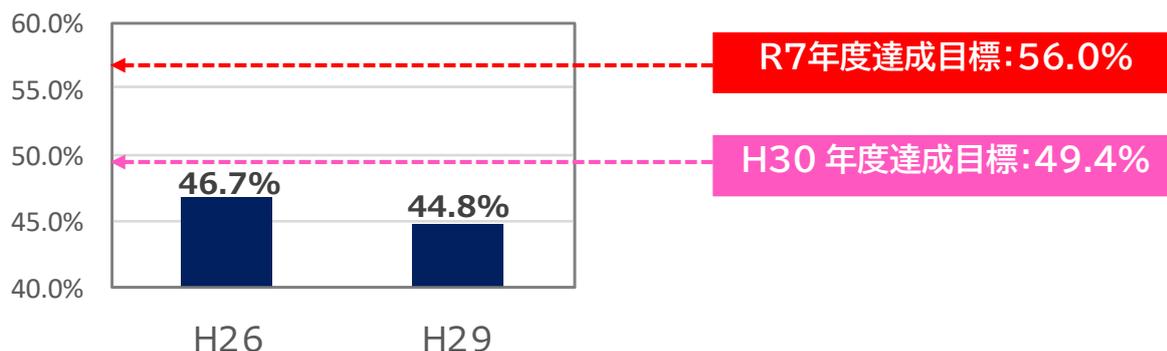
① 住民主体の気軽に参加できる場の創出



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、介護・高齢者支援課で把握している、「週1回以上実施している介護予防に資する住民主体の通いの場」の箇所数である（介護予防・生活支援総合事業は、平成29年4月から開始したため、平成28年度の数値はない）。
- ・本指標の平成30年度達成率は169%である。

② 介護サービスを利用してケアプランについて「不満な点はない」人の割合



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、3年に1度実施される「高齢福祉・介護保険サービス意向調査」の設問である。
- ・本指標の平成30年度達成率は91%である。
- ・ケアプランについて「不満な点はない」と回答した人の割合は、平成26年度は46.7%であったが、平成29年度には44.8%に低下した。誤差を考慮すると概ね変化はなかったと考えられるが、今後の推移に注意していく必要がある。

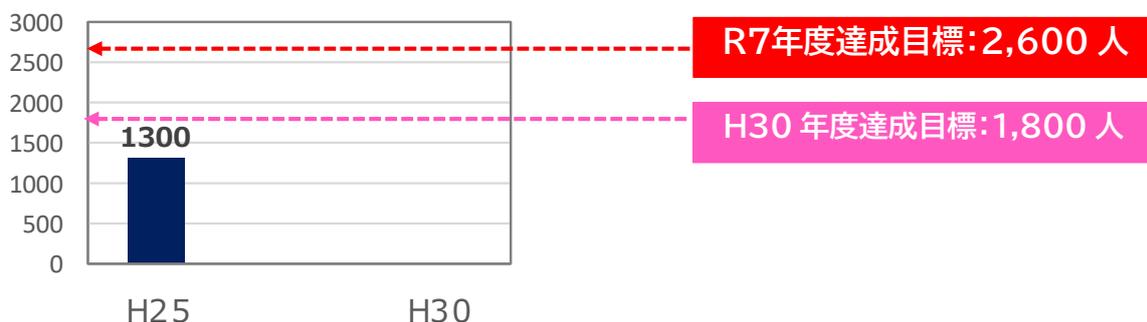
(6) 柱6 医療

目標	○高齢者が、在宅に必要な医療・介護サービスを受けられ、最期まで過ごすことができる。 ○医療ニーズが高い人でも在宅生活ができることについて区民が理解している。
施策	○在宅に必要な医療・介護サービスを受けらる体制の整備 ○多職種連携の一層の推進 ○区民への啓発、理解促進
主な制度、事業	○在宅療養相談窓口の開設、ICT活用による医療関連施設の情報共有の推進、在宅療養者緊急一時入院病床確保事業、摂食・えん下機能支援事業（地域包括ケア推進課） ○休日診療事業（保健企画課） ○病診連携をすすめる会（区内医療機関の関係づくり）、独自の地域包括支援センター協力医、まちなかの保健室、三師会を中心とした地域連携（医師会） ○まちなかサロン等にて日常的な健康相談、情報提供（社会福祉協議会、すこやか福祉センター、地域包括支援センター）

① 長期療養が必要になった時自宅で過ごしたい人の割合

※推進プラン全体の達成指標でもあるため、1ページを参照のこと。

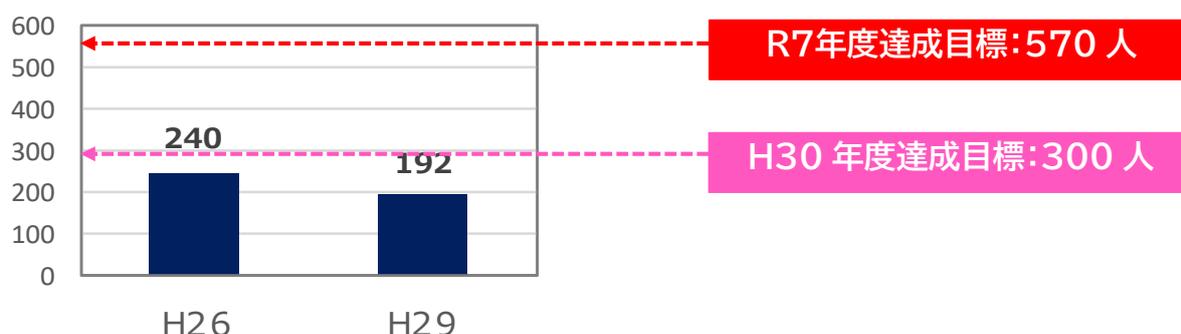
② 訪問診療を受けている患者数



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、東京都から提供を受けた「2013年在宅患者訪問診療算定レセプト枚数（国民健康保険・後期高齢医療）」によるデータである。
- ・平成30年度については、データの提供がなく、達成率の算出を行うことができなかった。

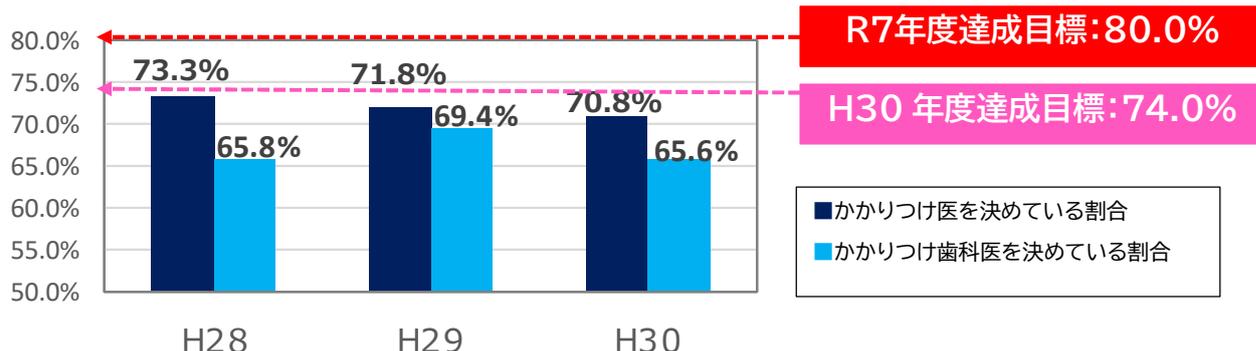
③ 在宅での看取りの人数



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、厚生労働省「在宅療養にかかる地域別データ集」による数値である。
- ・この数値の算出方法は、1か月間の看取り数の実績値を12倍して1年間の看取り数としたものであり、実績に基づいたものではないため、達成率の算出は行わなかった。
- ・本プランの[ステップ1]の目標は「高齢者が可能な限り住み続けられる地域づくりに向けた基盤整備」であり、在宅での看取り数は地域包括ケアにおける重要な指標である。このため、別の指標の設定を考案していく必要がある。

④ かかりつけ医、歯科医を決めている区民の割合



■指標の解釈・評価

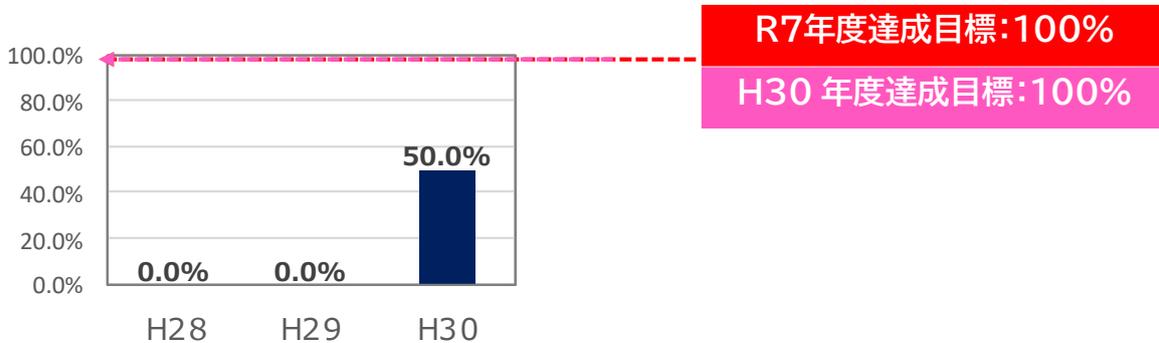
- ・本指標は、「健康福祉に関する意識調査」の設問であり、「決めている」「だいたい決めている」と回答した割合の合計である。
- ・本指標の平成30年度達成率はかかりつけ医が96%、かかりつけ歯科医が89%である。
- ・かかりつけ医を決めている割合は、この3年間で微減しているものの、誤差の範囲内に収まっているため、割合はほぼ横ばいで推移していると考えられる。
- ・かかりつけ歯科医についても、この3年間で上下しているものの、ほぼ変化がなく横ばいで推移しているものと考えられる。

(7) 柱7 相談、コーディネート機能及びケアマネジメントの質の向上

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が、医療・介護・生活にかかる困りごとをいつでも相談できる。 ○高齢者が、適切な支援を受けて、住み慣れた地域で生活を続けている。
施策	<ul style="list-style-type: none"> ○相談・コーディネート機能の充実 ○個々の区民への支援情報の共有化や支援レベルの適正化
主な制度、事業	<ul style="list-style-type: none"> ○すこやか福祉センターにおける相談支援の強化(ワンストップ体制の推進)(すこやか福祉センター) ○スキルアップ研修(介護・高齢者支援課、介護サービス事業所連絡会、

	シルバー人材センター、民生児童委員協議会、社会福祉協議会、地域包括ケア推進課、地域包括支援センター) ○中野区指針に基づくケアプランチェックの実施、ケアプラン質の向上検討会の開催（介護・高齢者支援課） ○福祉何でも相談（社会福祉協議会） ○高齢者訪問調査（民生児童委員協議会）
--	---

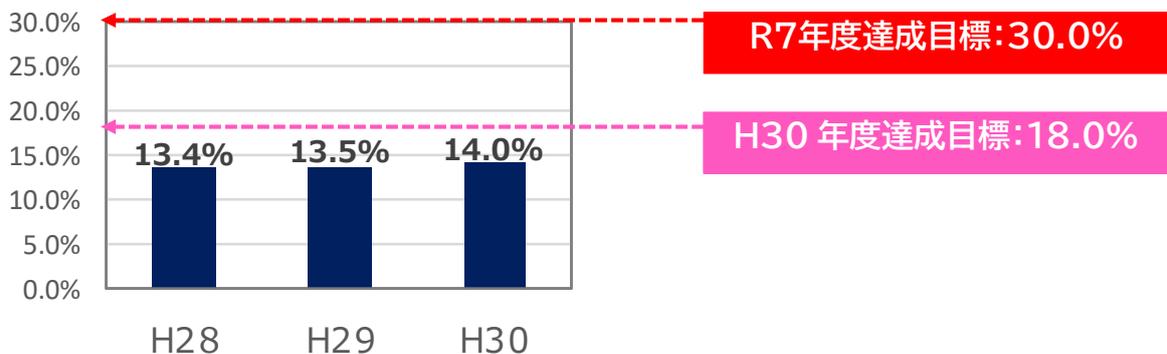
① すこやか福祉センター等が地域包括ケアを支えるための情報システムが完成している



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、数値ではなく、平成30年度は「関係機関同士の情報共有システム稼働」、令和7年度は「区全体でシステムを使った情報共有が図られている」という状態を指標としているものであるが、他の指標との比較が必要となることから数値化を図ったものである。
- ・平成30年度にインターネットを利用した関係機関同士の情報共有システムである「なかのメディ・ケアネット」を導入したものの、本格活用には至らなかったために、本指標の平成30年度達成率は50%とした。

② すこやか福祉センターを身近に感じる人の割合



■指標の解釈・評価

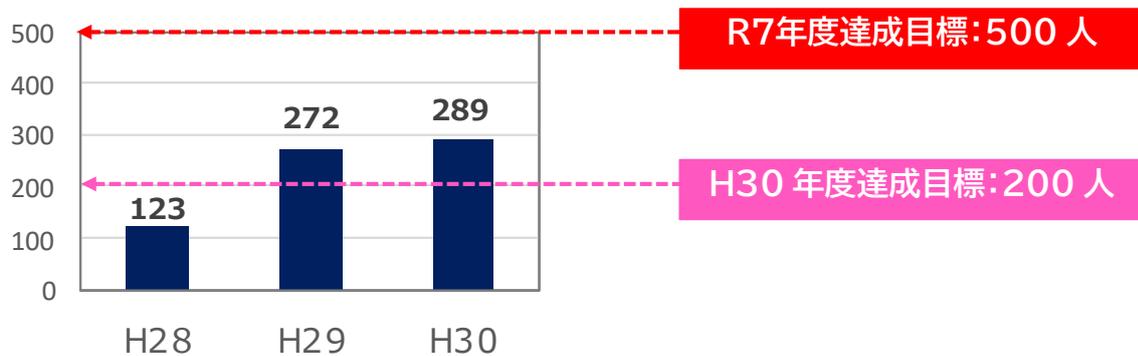
- ・本指標は、「健康福祉に関する意識調査」の設問である。
- ・本指標の平成30年度達成率は78%である。
- ・平成28年度から平成30年度まで微増しているものの誤差の範囲内に収まっており、「すこやか福祉センターを身近に感じる人の割合」はほぼ横ばいで推移していると考えられる。

柱8 認知症対策

目標	○認知症の人が、適時適切な医療・介護サービスを受けられている。 ○区民が、認知症の症状について理解し、対応がよくできている。
----	---

	○認知症の人や家族が、孤立しないで地域とかかわりを持って生活をしている。
施策	○相談、医療・介護体制の充実 ○早期の気づきと認知症にやさしい地域づくり
主な制度、事業	○医療・介護関係者のための認知症対応ガイドブックの改訂・活用、認知症初期集中支援チーム、認知症アドバイザー医・認知症サポート医・認知症疾患医療センターとの連携、若年性認知症支援多職種研修・連絡会の開催、認知症、若年性認知症の理解促進、中野区オレンジカフェ支援（地域包括ケア推進課） ○認知症サポーター養成講座、認知症サポートリーダー養成講座、サポーターステップアップ講座、認知症ケアパス、ファイブコグ検査、オレンジカフェ支援、家族介護教室の開催（地域包括ケア推進課、医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護サービス事業所連絡会、生活協同組合コープみらい等法人・企業） ○RUN 伴なかの開催（RUN 伴なかの実行委員会） ○オレンジカフェ開催、支援（中野区オレンジカフェ連絡会） ○徘徊高齢者探索サービス（介護・高齢者支援課）

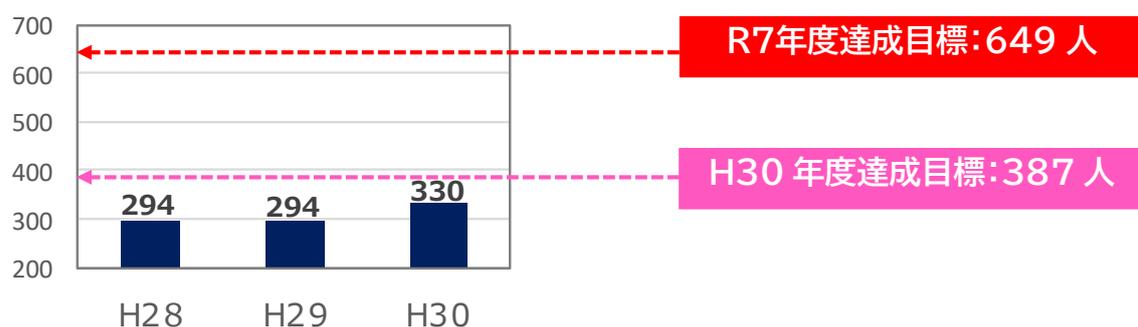
① 認知症サポートリーダー数



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、地域包括ケア推進課の事業実績による数値である。
- ・認知症サポートリーダーは認知症サポーター養成講座の受講修了者を対象とし、地域で認知症の人を支える担い手を増やすことを目的としている。
- ・指標の平成30年度達成率は145%である。
- ・平成30年度までの認知症サポーター養成講座受講者数は累計で17,816人であり、このうち認知症サポートリーダーになった割合は1.6%となる。推進プラン策定時は、認知症サポーター養成講座養成数2万人に対し、認知症サポートリーダー数200人を想定していた（1.0%）。

② 認知症グループホームの定員



■指標の解釈・評価

- ・本指標は、介護・高齢者支援課の事業実績による数値である。
- ・指標の平成30年度達成率は85%である。
- ・平成29年度までは、施設数18、定員294人であったが、平成30年度に2施設、定員36人が開設したため、合計で20施設、定員330名となったものの目標値には達しない結果となった。

③ 認知症をよく理解している区民の割合

※柱1の達成指標でもあるため、2ページを参照のこと。

柱1 本人の選択/権利擁護	H28	H29	H30
成果指標	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率
認知症をよく理解している区民の割合	1,186 ±2.8%	1,078 ±3.0%	1,046 ±3.0%
成年後見制度について、言葉、しくみを知っていると答えた区民の割合	1,186 ±2.8%	1,078 ±3.0%	1,046 ±3.0%
柱2 住まい・住まい方	H28	H29	H30
成果指標	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率
住みやすさの満足度（60歳以上）	458 ±4.6%	424 ±4.8%	403 ±4.9%
区内移動の快適性に関する満足度	1,228 ±2.8%	1,145 ±2.9%	1,167 ±2.8%
柱3 健康・社会参加・就労	H28	H29	H30
成果指標	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率
前期高齢者の就業率	※全数調査のため、サンプル誤差は生じない		
定期的に一定の運動・スポーツをしている区民の割合 （1回30分以上の運動を週に1～2回以上行っている割合）	1,186 ±2.8%	1,078 ±3.0%	1,046 ±3.0%
地域の活動に参加した区民の割合	1,186 ±2.8%	1,078 ±3.0%	1,046 ±3.0%
柱4 地域の見守り支えあい	H28	H29	H30
成果指標	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率
近所づきあいの中で、相談や助け合いなど親しい付き合いをしてくれる人がいる割合	1,186 ±2.8%	1,078 ±3.0%	1,046 ±3.0%
地域住民相互で見守り支えあいの活動をしている割合	1,186 ±2.8%	1,078 ±3.0%	1,046 ±3.0%
柱5 介護・生活支援サービス	H28	H29	H30
成果指標	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率
介護サービスを利用してケアプランについて「不満な点はない」人の割合	1,138 (H26) ±2.8%	/	940 (H29) ±3.1%

柱6 医療	H28	H29	H30
成果指標	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率
長期療養が必要になった時自宅で過ごしたい人の割合	1,186	1,078	1,046
	±2.8%	±3.0%	±3.0%
かかりつけ医、歯科医を決めている区民の割合	1,186	1,078	1,046
	±2.8%	±3.0%	±3.0%
柱7 相談・コーディネート機能及び ケアマネジメントの質の向上	H28	H29	H30
成果指標	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率
すこやか福祉センターを身近に感じる人の割合	1,186	1,078	1,046
	±2.8%	±3.0%	±3.0%
柱8 認知症対策	H28	H29	H30
成果指標	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率	回答数/ 誤差率
認知症をよく理解している区民の割合	1,186	1,078	1,046
	±2.8%	±3.0%	±3.0%

(95%信頼水準)